

韓弘栗・ソウル大学名誉教授が来日 ～森為三初代会長の足跡を辿る～

阪口 正樹

2011年1月21日、ソウル大専校名譽教授で韓国牛病學會名譽會長の韓弘栗 HONG-RYUL HAN 獸醫學博士 (71歳) から兵庫県生物学会武田義明会長宛にメールで、珍島犬の恩人である森為三先生の足跡を辿りたいので協力してほしいとの要請を受けました。

早速、前回 (『兵庫生物』第13巻5号に掲載) お世話になった大阪在住の鹿児島大学名誉教授の浜名克己氏 (71歳) と連絡をとり、2011年2月16日から2泊3日の予定を立てました。森先生に関係のある本会会員に集まっていたいただき大変お世話になりました。樋口清一副会長からは森先生の思い出を投稿していただきました。また、武田会長 (62歳) の依頼で、赤穂郡上郡町にある「赤松の郷昆虫文化館」の相坂耕作館長 (62歳) に森為三先生の詳細な御経歴を後記のように投稿していただきました。杉田隆三会員 (84歳) の主治医が森先生のお孫様とわかり、孫の森為博様、森敏弘様との懇談の場設定にご尽力いただきました。鈴木武会員 (48歳) には17日に同行し、兵庫県立博物館と京都大学・東京大学の資料を探索していただきました。また、鈴木氏は朝鮮学会会報掲載の森為三先生の自筆原稿を古書店から手に入れ、そのうちの2枚を公表していただきました。園田学園女子大学の朴景花さんには17日、18日に通訳していただきました。以下にその時の概要を報告します。

2011年2月16日 (水) ソウルのギンポ空港から関西国際空港へ14:20着。浜名氏が出迎えて15:15発のリムジンバスで西宮北口16:30着。武田会長と阪口 (62歳) が出迎える。阪急電車門戸厄神駅そばの「愛蓮」に行くが少し早く準備中の看板。近くにある「いかりスーパー」を見学、牛肉の値段をのぞく。

17:00 愛蓮門戸店で中華料理、4人で夕食。早春の料理長おすすめコース料理 (鯛の刺身愛蓮風、干し貝柱と豆腐のフカヒレスープ、揚げ物二種、季節野菜と海鮮のXO醬炒め、もち団子の蟹身あんかけ、やまと豚の黒酢風味、菜の花と干し海老の炒飯、点心、杏仁豆腐) で歓談。韓国の口蹄疫が大変な事態になっているとのこと。ソウルはマイナス10℃、日本は暖かくてパラダイス。

19:00 宝塚ワシントンホテルに向かう。2泊。

2月17日 (木)

9:00 宝塚ワシントンホテルから阪口が韓氏と通訳の朴景花さんを車に乗せて兵庫県立人と自然の博物館へ向かう。博物館では鈴木 (兵庫県立人と自然の博物館職員、兵庫県生物学会事務局員) が博物館にある文献をコピーする。韓氏は森先生の詳しい履歴を要望。

樋口清一 (73歳) 森為三先生の学生、兵庫県生物学会副会長

永吉照人 (70歳) 森為三先生の学生、兵庫県生物学会元会長

仲井啓郎 (77歳) 森為三先生の学生、元会員

がお待ちして、森先生の業績と人柄についてお話しした。

韓氏は、森先生 (珍島犬) の本を今年出版し、珍島に森先生の胸像を建てる予定だとのこと。エビガニは森先生の造語、アメリカザリガニが篠山に知られていなかった頃、出店の人が余ったのを捨ててそれが増えたとか。小学生がそれを森先生に持ってきたが、エビともカニともつかないのでエビガニと名づけたといわれている。

14:20 赤松の郷昆虫文化館着。昆虫文化館は民間の資料館で蝶をはじめいろいろな収集品を所蔵している。館長の相坂耕作氏は森家から預かった森為三先生の遺品の一部を保存中。森為三先生の遺品を基に詳しい履歴書を制作。未発表なので武田会長から『兵庫生物』への投稿を依頼した。

16:20 ホテル日航姫路着。本会顧問杉田が懇談の場を設定。

森為博（71歳），森内科医院医学博士

森敏弘（64歳），山野印刷株式会社専務取締役。

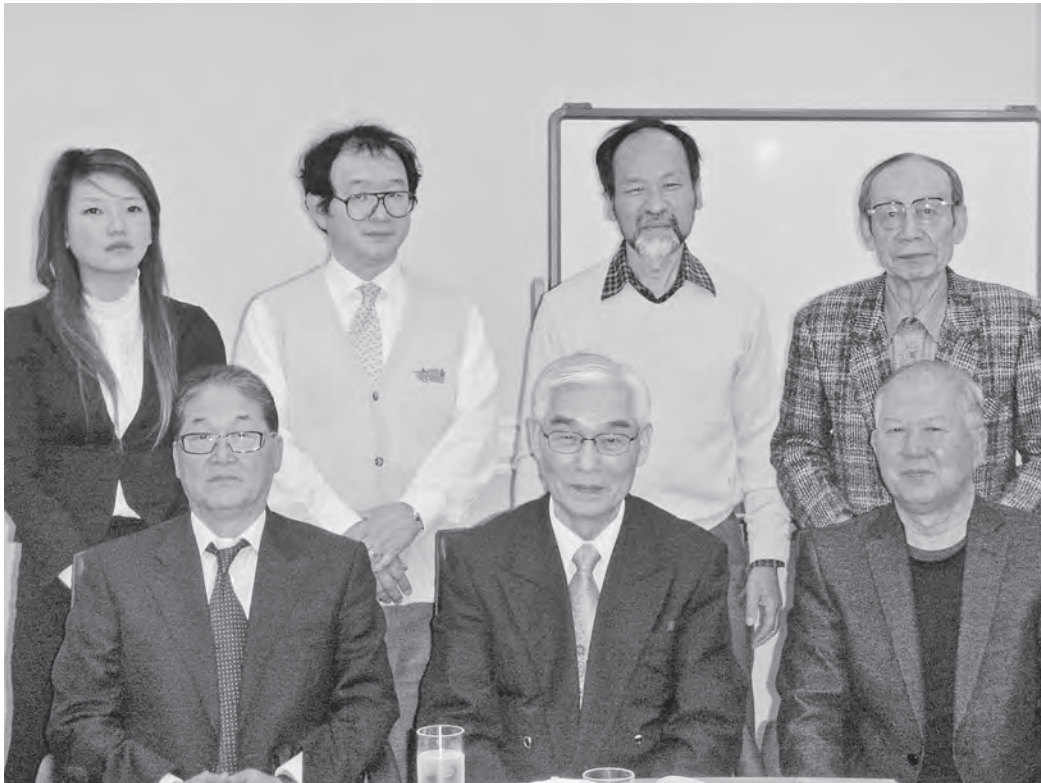
二人のお父様（森靖国様，森為三先生の長男）は既に他界されています。森先生が亡くなられたあと，東京大学のアベ先生が来られて標本などほとんどを預けたとのこと。叔母の薬師寺菊子様（森為三先生の長女）は東京在住で珍島犬の『エス』号をソウルで飼っていた時の写真をお持ちとのこと。今，珍島犬は紀州犬に似せているが『エス』号は本当の珍島犬なので，今年出版する本の表紙として使いたい。お土産にお父様の勤めておられた和菓子会社の『玉椿』をいただいた。

18:50 宝塚ワシントンホテル着。韓国からのお客様あり。

2月18日（金）9:00 ワシントンホテルから南海電鉄難波駅へ案内。15:20 関西空港からソウルのギンポ空港へ。

なお，2月22日（火）飛行機便で韓氏宛に森先生関連記事のある『兵庫生物』no.1(1948), Vol.2no.2 (1952), no.3(1953), no.4-5(1954), Vol.3no.1-2(1955), no.4(1958), no.5(1959), Vol.4no.1(1960), no.3-4(1962), no.5(1964), Vol.11no.2(1996)と赤松の郷昆虫館訪問が掲載された2月19日付け『神戸新聞』西播版を郵送した。

また，鈴木は京都大学，国立国会図書館から後述のものをコピーし韓氏に郵送した。森敏弘氏が薬師寺菊子様から預かった写真と雑誌を阪口が3月28日に韓氏に郵送した。ソウルから引揚げる際，菊子様がアルバムからはがして持ち帰ったご家族の写真と珍島犬『エス』号，戦後の森先生の写真，合計8枚と『兵庫生物』Vol.3, no.5（1959）Vol.4, no.3～4（1962），『白岳』復刊第5号（昭和37年9月）の3冊である。（敬称略）



2011年2月17日ホテル日航姫路で撮影

前列左から森敏弘，韓弘栗，森為博，後列左から朴景花，鈴木武，阪口正樹，杉田隆三。